

文化遺産ニュース

Cultural Heritage News
from NARA

Vol.
24
March 2012

◎ 研修レポート 集団研修	1
◎ 研修レポート 個人研修(インドネシア)／世界遺産教室	2
◎ 国際会議 「伝統技術の継承と人材養成 - 石とレンガの修理技術 -」	3
◎ 文化遺産国際セミナー 「庭園にみる東アジア世界」	4
◎ 文化遺産ワークショップ モンゴル・ウランバートル	5
◎ モンゴルの文化遺産 - ウランバートルとその周辺 -／イクロム総会へ参加	6

ハラホリンの世界遺産



集団研修

2011年8月30日(火) ~
2011年9月29日(木)



集団研修・開講式

2011年8月30日から9月29日まで、アジア太平洋地域の15カ国から15名の研修生を招き、「木造建造物の保存と修復」をテーマに研修を実施しました。

この研修は、木造の文化遺産建造物の保存のための記録や調査の方法、実際の保存・修理・維持管理の技術や手法について学び、さらにはアジア太平洋地域での情報交換やネットワークづくりなど目的としています。研修生は、政府機関、大学、研究所などで、文化遺産の保護・保存、修理、管理に携わっています。

講義ではアジアや日本の木造建造物の特徴や保存と修理について学び、つづいて木造建造物の修理のための図面作成にもなう実測調査や破損調査・修理計画についての実習、また歴史的な町並み保存のための計画作成についてグループワークなどを行いました。

さらに研修生による自国での木造建造物の保護・保存、修理などとりくみに関する報告を行い、現状の課題などについて研修生や講師と討論を行いました。



旧田中家住宅での実測実習

カリキュラム(概要版)

講義
「アジアの建築文化遺産概論」「日本建築の歴史文化財保護制度と保存の現状」「年輪年代学概論」など

実習
「木造建造物の調査・記録と修理計画(奈良市指定文化財「旧田中家住宅」)」「町並調査・保存計画」「彩色調査と塗装修理計画」など

臨地研修
法隆寺、五條新町、今井町、姫路城、高山、白川村など

報告・討議
研修生自国の「現状と課題」についての報告と意見交換



伝統的の大工道具の説明



今井町・重文今西家住宅での臨地研修

個人研修

2011年7月5日(火) ~
2011年8月4日(木)

2011年7月5日から8月4日までの1か月間、インドネシア文化観光省より3名を招聘し、研修を行いました。

インドネシアの建造物というと、私たちは、世界遺産に登録されているポロブドゥールやプランバナンといった石造建造



今井町での臨地研修

薬師寺・伝統的
大工道具の説明



旧田中家住宅での実測実習

物を思い浮かべますが、インドネシアでは王宮やイスラム教寺院のモスク、民家など、木造建造物も多くみられます。しかし木造建造物の保存や修理の専門家が不足していることから、この分野の人材育成が必要とされています。

研修では、木造建造物の保存・修理のための記録、調査方法、保存計画の考え方などについての知識や技術を習得することを目指しました。木造建造物単体だけでなく、木造建造物で構成される歴史的町並みの保存、さらには文化財における災害の危機管理などについても、講義や実習を通して実践的な研修を行いました。

カリキュラム(概要版)

講義
「日本の木造建築概論」、「木造建造物修理方法概論」、「町並み集落保存概論」など

実習
奈良市指定文化財 旧田中家にて「木造建造物の実測実習など」

臨地研修

(奈良県)
東大寺・春日大社・興福寺法隆寺・談山神社、唐招提寺・薬師寺・今井町重要伝統的建造物群保存地区など
(他府県)
清水寺・東寺(京都府)、姫路城・北野町山本通重要伝統的建造物群保存地区(兵庫県)、五箇荘金堂(伝統的建造物群保存地区)(滋賀県)など

参加者の感想



アントンさん

この研修で日本の木造建造物の保存修理に関する知識や技術を得られたのは非常に貴重な経験でした。また、技術や知識のみならず、社会や環境の変化に沿って、伝建制度や文化的景観といった文化財を設けるなど、日本の文化行政の発展の歴史を知ることによって、インドネシアでの取り組みに非常に参考になりました。研修で学んだ日本での木造建造物の修理や保存の技術や知識がインドネシアの木造建造物の保存にすべてそのまま適用できるわけではないですが、今後担当する事業の中でよく検討して取り入れていきたいと思っています。



ニッコーさん

この研修に参加して、文化財建造物の修理に関する技術、準備、保存のための設備といった、これまで知らなかった多くのスキルや知識を得ることができました。インドネシアに帰って、この研修で得たものをインドネシアの状況に合わせて検討し、保存や修理のみならず維持管理にも活かしていきたいと思っています。また、日本で学んだ技術や知識を同僚と共有していきたいと思っています。



プリマさん

この研修に参加して、理論だけでなく、実際の現場での実習などによって、毎日、新たな経験、知識を得ることができました。そして修理された古代社寺建築、保存地区として指定された歴史的町並みや集落、修理現場を自分の目で見られたことは、たいへん勉強になりました。この研修で習得したことは、インドネシアの文化遺産保存という我々が行う仕事で大変役に立つと思います。



東大寺・大仏殿(古都奈良の文化財)

世界遺産教室

A C C U奈良事務所では、毎年、奈良県内の高校を訪問し、日本や諸外国の世界遺産を題材にした「世界遺産教室」を開催しています。世界遺産を通じて、文化遺産保護の重要性を楽しく学んでいただきたいとの思いからです。

今年度の講師には、フリーアナウンサーで世界遺産研究家の久保美智代さん、通訳ガイドとして活躍の小野以秩子さん、また世界遺産「古都奈良の文化財」の登録にもご尽力なされた奈良市・文化財課の中井公さんに講師をお願いし、奈良県内の6校で開催致しました。

講師の方には、映像とクイズを交えたり、クイズ正解者に世界のお土産などのプレゼントがあったり、盛りだくさんの企画をご準備いただきました。受講された生徒の皆さんからは、いろいろな世界遺産へ行ってみたくなった、など嬉しい感想が寄せられています。

これからの文化遺産保護をになう若い世代に、楽しく文化遺産を学んでいただける「世界遺産教室」は今後も続けて開催していきます。



スライドを真剣にみる高校生:高取国際高校

●国際会議

伝統技術の
継承と人材養成

『石とレンガの修理技術』をテーマに、
2011年12月6日～12月8日、
中国・上海市で開催しました。



全体記念写真

文化遺産保護に携わる各国の専門家が中国・上海に集まり、国際会議を開催しました。この国際会議は「伝統技術の継承と人材養成」をテーマとして複数年継続して開催することを予定したもので、今年は2年目になります。

前回、奈良で開催した時は、建造物修理における法制度と木工を中心に進めましたが、今回は、石やレンガでできた建物、あるいは石垣などを修理・修復する技術を取り上げました。

会議は基調講演で始まり、最初は、イクロム・プロジェクトマネージャーのガミニ・ウイジェスリヤ氏で、伝統技術の継承とは、技術だけでなくそれに関わる知識や技術者なども含めたすべてを継承することであり、人材養成もこうした点を踏まえておこなう必要がある、との講演がありました。

続いて中国文化遺産研究院副院長の侯衛東（ホウ・ウェイドン）氏から、中国における石やレンガの建造物の保護・修復について、最後に文化庁記念物課主任文化財調査官の本中真氏から日本における石垣修理技術の保護制度についての講演がありました。

第一日目午後と三日目午前には、参加各国（日本、中国、韓国、インド、インドネシア、フィリピン、スリランカ）から、それぞれの国における石およびレンガ建造物修理の現状と課題について事例報告が行われました。

会議の二日目には、上海市内の歴史的建造物を訪ね、修復の方針とそれ



上海の街並（エクスカーショ）

に基づく修理の実際、さらにその後の活用状況等について視察しました。

最終日午後の総合討議では、基調講演と事例報告を受けて各国の現状と課題をふまえ、議論が進みました。

伝統的な材料と技術による建造物修理のあり方や保存した建造物の活用について検討するとともに、修理・修復の対象となった建造物の事前調査における最新科学技術の活用や手法についても情報の共有化を図りました。そして最後に伝統技術の再生と継承に向けての提言がまとめられました。

また、今後の課題として、個々の建造物の保存・修復にとどまらず、面的な広がりをもった建物群としての保存についても検討する必要性が指摘されました。



会議風景



会議風景



主催者挨拶

●文化遺産国際セミナー 庭園にみる 東アジア世界

2012年2月4日、
ならまちセンター市民ホールにて

ACCUN奈良事務所では、多くの方々に文化遺産保護の大切さについて理解を深めていただきたいと思い、毎年、文化遺産国際セミナーやシンポジウムを開催してきました。

今年も、発掘調査によって明らかになった東アジア古代の庭園についてご紹介することにしました。日本・韓国・中国、それぞれの国の第一線の研究者から発掘調査で明らかになった古代の庭園の様相についてお話いただき、その後講演していただいた方々による座談会を開催しました。



菅谷文則氏

最初は、奈良県立糧原考古学研究所所長の菅谷文則さんによる基調講演「東アジアの庭園世界」で

す。中国と日本の庭園を中心に、文献に残された史料や考古学の調査成果に基づいて、菅谷さんご自身の古代の庭園観についてお話をいただきました。



中村行弘氏

続いての講演は、奈良県立糧原考古学研究所所長の中村行弘さんによる「日本の古代苑池」で

す。飛鳥京跡苑池をはじめとする発掘調査された古代苑池には、時代や規模によつていろいろなタイプがある。飛鳥時代にはじまる苑池は、海外からの影響のみならず、飛鳥の都市計画のなかでマッチするように練り直されたものであるとの見解を披露していただきました。



金谷申氏

休憩を挟んで、韓国からお招きした全北大学校の金谷中さんは「韓国の古代発掘苑池」と題して、近年、

発掘調査が進んでいる百済の王宮里遺跡、新羅の九黄洞遺跡の様相が明らかになった7〜8世紀の苑池について、最新の研究成果を紹介していただきました。韓国では、苑池の発掘事例がそれほど多くはありませんが、日本への海外からの影響を考えると、重要な資料となります。



汪勃氏

講演の最後は、中国社会科学院考古研究所の汪勃さんで、演題は「中国漢唐時代苑池遺跡の発掘調査と研究」

です。紀元前1600年まで遡る苑池の出現から唐代にいたる中国の苑池について、発掘調査の成果を中心に紹介していただきました。

その後は、「庭園にみる東アジア世界」をテーマに講演された方々による座談会です。菅谷所長のユーモアを交えた進行のもと、「園」と「苑」の違い、「苑池で飼われていた動物」、「飛鳥の苑池への海外からの影響」等について、活発な意見が交わされました。

当日、会場にお越しいただいた皆様は、東アジアの庭園に思いをはせ、熱心に耳を傾けていました。



座談会「庭園にみる東アジア世界」

モンゴルの首都ウランバートルで 文化遺産ワークショップを 開催しました。

アジア太平洋地域における文化遺産保護に携わる人材を養成するために現地に講師を派遣し、その地域の実情に合わせて行う実践的研修「文化遺産ワークショップ」。

5年目の今年は、モンゴルの首都ウランバートルで開催しました。

モンゴルには、これまでの「ウヴス・ヌール盆地」、「オルホン渓谷の文化的景観」に加えて2011年に登録された「アルタイ山脈の石群」という三つの世界遺産があります。

ウランバートル市内にも、仏像としてはアジア最大の立像を本尊とするガンダン寺、現在は博物館となっている



ガンダン寺観音堂

る第8代ボグド・ハーンの冬の宮殿などがあります。

今回のワークショップは、「考古遺物の記録方法」をテーマに、10月17日から6日間、モンゴル・日本センターを会場に開催しました。

研修には、モンゴル国内の文化遺産保護部局や博物館などに所属し、文化遺産の調査・研究・保護に従事する15名が参加しました。

開講式では、ACCU奈良事務所長とモンゴルの教育文化科学大臣による主催者挨拶のほか、今回のワークショップを後援していただいている在モンゴル日本国大使館大使からもご挨拶をいただきました。

研修プログラムは、「土器実測概論」からはじまりました。講師は檀原考古学研究所の土橋理子さんと奈良市埋蔵文化財調査センターの池



土器実測実習風景

田裕英さんです。考古学における実測の必要性、土器の製作技法や観察する時の注意点についての講義がありました。

土器の実測実習に際しては、最初に講師が実測用具を用いて土器を測りながら実測の要点を説明し、その後、研修生各自が、モンゴル国内の発掘で出土した土器を用いて実習しました。また、土器の文様を拓本で採



写真撮影実習風景

研修の後半は写真撮影です。講師は文化財写真家の杉本和樹さん。最近では誰もがデジタルカメラ、という時代ですが、写真そのものの原理は変わりません。研修生は、絞り、シャッタースピードなど、写真の原理と撮影方法について講義を受けた後、実習に取り組みました。

屋外での撮影だけでなく、遺物撮影用の撮影装置を組み立て、カメラの位置、遺物の置き方や照明方法などについても実習しました。

最終日には、それぞれは、それぞれの講師の先生から研修の総括と講評があり、その後、閉講式で研修生それぞれに修了証書が手渡されました。



閉講式

モンゴルの文化遺産 ーウランバートルとその周辺ー

マンジュシュリ寺院跡は、ボグド山の南山腹、ボグド・ハーン国立公園にあったチベット仏教の寺院です。ウランバートル

今回ワークショップを開催したモンゴルの首都ウランバートルとその周辺には、世界遺産にはなっていませんが、寺院や遺跡が残されています。そのいくつかをここで紹介します。

ウランバートルの南を東西に流れるトール川を渡ったボグド山の北麓にイフ・テンゲリン・アムの岩絵があります。方形の枠の中にたくさんの丸い点と、手を挙げた人、鳥や馬などを描いています。時代は青銅器時代(紀元前3000~300年)のもので、ほかに黒で描かれた帽子を被った女性や文字も見られますが、これは、13~14世紀のもので、



イフ・テンゲリン・アムの岩絵



南に開けたマンジュシュリ寺院跡



マンジュシュリ寺院跡

ルからの距離は直線になると20kmほどですが、実際に行くとなると、ボグド山を大きく迂回するため50kmほどになります。南に開けた斜面に建物ごとに平坦な壇を造成し、数多くの寺院・僧院群が建ち並んでいましたが、1930年代に破壊されました。現在は、展示施設の周辺に何棟かの建物の基壇や石壁の一部が残されています。また、背後の山には仏画を描いた岩が残っています。麓には石人がありますが、これは、突厥時代(6~8世紀)のもので、ウランバートルから東南東に約40km。草原の中に立石が見えます。バインツォ



トニユクク碑文

クト遺跡は、隅丸方形の区画内に石が立ち並び、周囲は、東側の通路部分(出入口)を除き、溝を巡らせています。出入口から東の方には、バルバルと呼ばれる石列が続いています。

出入口の南北に立つ石が東突厥(7~8世紀)のトニユククが自らを称えて建てたもので、トニユクク碑文ともいわれています。突厥の碑文は東アジア遊牧民としては最初の文字であることから重要視されています。奥には板石で囲った施設があります。またかつては石人も立っていました。現在は、少し離れた別の施設に移されています。

イクロム総会へ参加

ACCUCU 奈良所長 西村 康

2011年11月14日から同16日までローマのFAO(国際連合食糧農業機関)で開催された第27回イクロムの総会へ出席した。総会は2年に一度開かれるが、今回は130の加盟国のうち90か国の代表団とオブザーバーをあわせて200名以上が参加した。

今回の大きな議題は6年間の任期を終えたプシユナキ所長が退任するに伴う選挙のあったことである。所長が退任の辞を述べたときには、出席者全員が立ち上がり拍手をしたのが印象的であった。6年間の精力的な活動と親しみやすい人柄がもたらしたものとと思われる。任期中に事業の及ぼす範囲をラテンアメリカやアフリカへ従来より大きく広げた点は、皆が評価するところであろう。

ACCUCU 奈良の活動としては、ワークショップをモンゴル・ウランバートルで実施したこと、国際会議をユネスコアジア太平洋地域世界遺産研修研究所上海センターと共催で12月に上海にて行う予定であることを紹介した。



FOAの建物屋上から見えるローマ時代遺跡(チルコ・マッシモ競技場とパラティーンの丘)



会場風景 議決には国名を書いたカードを掲げる

モンゴル・ハラホリンの世界遺産

表紙の写真：モンゴル・ウランバートル市内のチョイジンラマ寺院博物館
—市街化の進むなかで文化遺産が守られている—



モンゴルの世界文化遺産としては、ハラホリン(カラコルム)を含むオルホン渓谷の文化的景観がよく知られていますが、2011年には新たにアルタイ山脈の石碑群も登録されております。

南から伸びてきたオルホン渓谷が、北へ大きく広がる平原と接する位置にハラホリンはあります。ここが13世紀初めにできたモンゴル帝国の首都があった場所です。

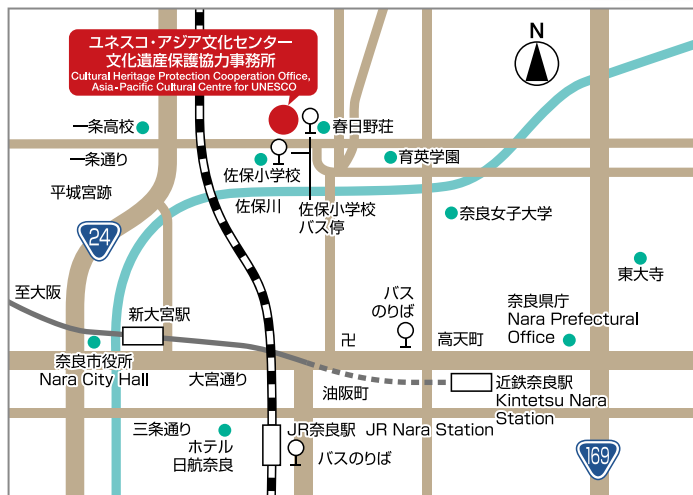
ハラホリンの遺跡

遺跡は、観光客が多く訪れる16世紀創建のエルデニゾー寺院(Erdene Zuu Monastery)の北背後にあります。基壇状に少し高くなった場所には緑釉の瓦や土器が散布しています。建物の跡を示す礎石も並んでいますが、どうやら後世に置き直したようです。近くには亀の形をした台座(亀趺)もみられます。



ハル・バルガス遺跡

ハラホリンの遺跡から西北西へ約40kmにある8世紀に築かれた都城の遺跡で、宮殿跡とされる中心部分は一辺400mほどのいびつな長方形です。日干しレンガで積まれた城壁が5mをこえる高さに残っています。内部は雑草で覆われていますが、草の生え方や僅かな高低差から、建物らしき跡が想像できるのが興味深いところ です。



公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター 文化遺産保護協力事務所

Cultural Heritage Protection Cooperation Office, Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO

〒630-8113 奈良市法蓮町 757(奈良県奈良総合庁舎1階)

TEL 0742-20-5001

FAX 0742-20-5701

URL <http://www.nara.accu.or.jp>

E-mail nara@accu.or.jp

交通アクセス

- 近鉄奈良駅から
 - 徒歩約 20 分
 - バス 13 番のりばから「西大寺駅行き」または「航空自衛隊行き」で、佐保小学校下車すぐ
- JR 奈良駅から
 - 徒歩約 25 分
 - バス 7 番のりばから「西大寺駅行き」または「航空自衛隊行き」で、佐保小学校下車すぐ